

新しい観光の取り組みに向けて

子ども農山漁村交流の推進

人口の減少傾向の中で、交流人口の拡大が地域経済活性化の重要な課題となっています。

最近では、エコツーリズムやグリーンツーリズム、そしてニューツーリズムといった言葉をよく耳にします。これらは、地域の自然や文化、人々との触れ合いを、学び・体験する旅行で、最近、特に注目されています。高島市でも、山、里、琵琶湖の自然がコンパクトにまとまった地域の特徴を活かし、農林漁業体験や自然観察などを組み合わせた体験型観光による交流人口（観光入込数）の拡大に取り組んでいます。

こうした中、総務省・文部科学省・農林水産省の3省が連携して、小学校における農山漁村での長期宿泊体験活動を推進する「子ども農山漁村交流プロジェクト」が始動し、高島市はこの受入モデル地域として、全国90か所（県内2か所）のうちの1か所に選定されました。現在、びわ湖高島観光協会を窓口に、体制整備を図っているところです。

この「子ども農山漁村交流プロジ

エクト」は、全国の小学校1学年120万人を対象に、農林漁家での民泊や農林漁業体験等を通じて、食の大切さを学んだり、共同生活での協調性や、幅広い世代との交流によるコミュニケーション能力を高めることを目指しています。

高島市では、マキノ高原民宿村や箱館山民宿村をはじめ、旅館・ホテルにおいて、小・中学校を中心として、年間100校を超える教育旅行の受け入れがすでに行われていますが、交流施設などの有効利用、平日や閑散期における誘客策として、この取り組みを推進しています。

こうした取り組みを進めるにあたり、課題となるのが体験宿泊場所となる民泊として受け入れのできる農林漁家の確保です。この取り組みについて、興味や関心をお持ちの方は、ぜひ、びわ湖高島観光協会または市役所商工観光課までご連絡ください。最近の観光は、ニーズの細分化や少人数化により、今までの出発地の旅行業者などが企画したバック旅行、いわゆる「発地型旅行」に代わって、



地元の情報に詳しい目的地の地域関係者などが企画する「着地型旅行」が人気を集めています。また、宿泊を含む滞在型観光の振興が求められ、高島市においても長期滞在に向けた広域観光の取り組みを検討しています。

観光産業は、関連産業の裾野が広く、地域経済への波及効果も期待できることから、今後、これらを組み合わせた取り組みをさらに推進していきます。

商工観光課
☎(22)851-4

通報者の発信位置を即座に把握 携帯電話等位置情報通知システムの運用開始

消防本部では、携帯電話・ＩＰ電話等からの119番通報で、通報者の場所を特定する位置情報通知システムを導入し、運用を開始しました。

1. 位置情報通知システムの概要

このシステムでは、携帯電話およびＩＰ電話等からの119番通報において、音声通話と合わせて通報者の発信位置に関する情報が、自動的に消防本部に通報され、位置情報通知システムにおいて電子地図上に表示することが可能となります。

特に屋外からの通報では、通報者の発信位置を即座に把握することができるため、より迅速かつ確実な消防活動に役立ちます。

2. 対象となる電話

- 第3世代以降の携帯電話（※1）
高速データ通信対応の携帯電話
- ＩＰ電話等（※2）
050で電話番号が始まる電話サービスを除く

3. 通知される位置情報等

- 携帯電話
緊急通報を受信した基地局所在地等から算出された位置情報が通知されます。GPS測位方式対応機種については、より精度の高いGPS測位情報が通知されます。
- ＩＰ電話等
契約者情報（住所および氏名）が通知されます。詳しいことは、契約会社にお問い合わせください。



4. その他

- (1) 口頭による情報伝達について
位置情報が十分確認できないことがありますので、119番通報の際は、これまでどおり住所等通報位置や目印となる目標物を伝えてください。
- (2) 「184」を付加した通報について
対象となる電話からの通報であっても、「184」が付加された発信者番号非通知の場合は、位置情報について管轄する位置情報通知システムに通知されません。ただし、人の生命、身体等に差し迫った危険があると認められ、通報内容から直ちに通報場所の特定ができない場合には、位置情報等を取取得することがあります。

- (※1) NTTドコモのFOMA、au (KDDI) のWIN、ソフトバンクの3Gなどが該当します。詳しくは各携帯電話事業者や販売店にお問い合わせください
- (※2) インターネットを利用した電話で、電話網の代わりに「ＩＰ網」を使った電話のことです。

消防本部通信指令課 ☎(22)1234

乗って増やそう湖西のダイヤ！



高島市では、湖西線運行ダイヤの充実や強風対策、駅エレベータの設置などの駅施設等の改善について、ＪＲ西日本（株）に働きかけています。しかし、利用客が少なければ、運行コストが高むため、運行本数を増やしたり、駅施設充実のための投資は厳しいのが現状です。

ＪＲ西日本（株）では、各駅での切符等の売り上げが大きく評価されます。「定期券は高島市内の各駅で購入する」「ＪＲを利用するときは、往復乗車券を購入する」など、高島市内各駅の利用をよろしく願います。
一人でも多くの皆さんの利用が要望実現の大きな力となります。
なお、春のダイヤ改正による路線バスの時刻変更はありません。詳しくは、各バス会社または交通景観政策課へお問い合わせください。
交通景観政策課 ☎(22)0904

みなさんの利用が、湖西線の利便性向上と地域の発展につながります

- ・通勤や通学、出張、お買い物などには電車を利用しましょう。
- ・市内の駅で便利な往復切符を購入しましょう。
- ・市内の駅で定期券や回数券、特急券を購入しましょう。
- ・ICOCAカードへのチャージ（入金）は市内の駅で行いましょう。

